



野外彫刻鑑賞アートウォーキング

紅葉の弘法山を歩く芸術鑑賞

カメラスケッチ

平成28年12月15日(木)開催

主催：秦野市

協力：秦野市観光ボランティアの会、彫刻愛し隊



【行程】

参加者27名（一般公募参加者22名・彫刻愛し隊員5名）

ハイキングコースガイド：水島 美世（秦野市観光ボランティアの会）

時間	内容
10:00	集 合（秦野駅改札前）
10:05～ 10:15	「あなたと・・・」→「母子像」→「地球環境保全像」 生命の詩→COSMIC RING
10:15～ 11:35	ウォーキング （まほろば大橋→浅間山→権現山→馬場道→「森に生きる」）
11:35～ 11:45	ウォーキング （馬場道→弘法山山頂）
12:00～ 12:40	昼 食
12:40～ 14:00	ウォーキング （弘法山山頂→吾妻山→鶴巻温泉駅）
14:00～ 14:30	宿借り「おかえりなさい」→飛翔→宮永岳彦記念美術館
14:30	解散（希望者は弘法の里湯へ）



【カメラスケッチ】



午前10時、秦野駅に集合後、観光ボランティア・彫刻愛し隊等を紹介。天候にも恵まれ、あおぞらの中野外彫刻アートウォーキングに出発。

秦野駅北口（3基）及びまほろば大橋（2基）に設置されている野外彫刻を鑑賞。

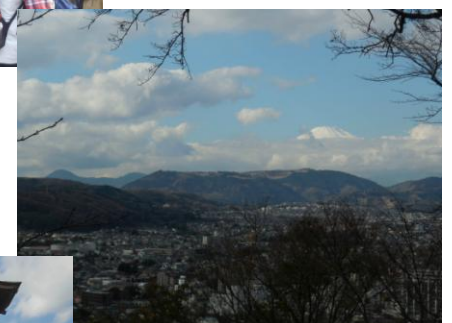
まほろば大橋から河川敷に降り、観光ボランティアによる水無川の由来や植物などの説明を聞きながら水無川沿いをウォーキング。



参加者同士コミュニケーションを取りながら、それぞれのペースで登る参加者。



残念ながら富士山は少しだけしか見ることが出来なかったが、山の上から見る素晴らしい景色を眺めながら一息をつく。



権現山の頂上で、権現山の由来や、秦野市出身の詩人前田夕暮の歌碑などについて、説明を受けた。





弘法山公園に設置されている野外彫刻「森に生きる」と一緒に集合写真。



観光ボランティアの案内により普段はあまり通らない道を行き、矢倉沢往還の説明を受けた。写真は旅人の峠越えの安全のために建てられた「御夜燈」で、明治末期まで使用されていました。



鶴巻温泉駅にある宮永岳彦美術館を訪れ、「彩と響」をテーマに音楽に関連した作品の展示を見学。

希望者は、美術館の横にある弘法の里湯でウォーキングの疲れを癒した。

【野外彫刻の紹介】

《秦野駅周辺》

「あなたと…（時は流れて）」

制作者：武荒信顕

（たけあら のぶあき）

取得経過：野外彫刻設置事業

設置：平成2年9月

素材：鋼板 合成樹脂ペイント ステンレス
ボールベアリング

～制作者のコメント～

もっと近づいてごらん下さい、心を透明にして！！
青い空。白い雲。緑の森。Redをいれてさしあげましょ
うか？ 見上げてごらん下さい、時は流れて行きます。あなたと・・・



「母子像」

制作者：佐藤助雄

（さとう すけお）

取得経過：遺族からの寄贈

設置：平成元年9月

素材：ブロンズ

本制作者は格調の高い具象彫刻家として有名で、60歳のときには日本芸術院賞を受賞。昭和62年68歳のときに死去。本作品は、遺族から本市へ寄贈されました。世田谷区に佐藤助雄記念館があります。



「地球環境保全像」

制作者：後藤良二

（ごとう りょうじ）

取得経過：秦野ロータリークラブ創立30周年記念寄附

設置：平成3年3月

素材：FRP 白御影石 ステンレス

箱根の彫刻の森美術館にある「交差する空間構造」をはじめ、全国各地に本制作者の作品は設置されています。本作品は、秦野ロータリークラブ創立30周年記念に伴って寄附されたもので、地球をイメージする球体から人体が飛び出すようにらせん状につらなっています。



「生命の詩」

制作者：西巻一彦

(にしまき かずひこ)

取得経過：夢のかけ橋彫刻展

設置：平成元年 10 月

素材：本小松石

～制作者のコメント～

作品だけが一人歩きすることなく、橋を渡る人々が作品と語り合えるようなものにしたい。



「COSMIC RING」

制作者：横山 徹

(よこやま とおる)

取得経過：夢のかけ橋彫刻展

設置：平成元年 10 月

素材：黒御影石

～制作者のコメント～

作品のフォルムは、自分を表現するための一つのメッセージにすぎない。重要なのは、素材に対して取り組む姿勢であり、そのプロセスだと考えます。自然のままの石は素晴らしいが、それだけでは満足できない。薄くはぎ取り、穴を穿つ、そのような一見無駄な行為を通すことより自分の存在を確かめる。瞬時に生れたメッセージを石の中に永遠に封じ込める時の緊張感がたまらなく好きです。



《弘法山公園》

「森に生きる」

制作者：会田富二男

(あいだ ふじお)

取得経過：購入

設置：平成 3 年 9 月

素材：黒御影石

～制作者のコメント～

彼らは、森の番人であり、人間の友人である。ふくろうは、森や自然を意味し、子供は人間と森との間に生まれた物として、不思議な形になった。この作品の前に人が立ち、触れ、腰を掛け、また、その陰で涼をとることで作品が初めて完成します。



《鶴巻温泉駅周辺》

「飛翔」

制作者：テイエリーヴィデ

取得経過：鶴巻温泉駅北口広場整備制作設置委託

設置：平成8年5月
素材：ステンレス



テイエリーヴィデは、フランスの彫刻家で、ステンレスに穴をあけるといふ現代的なスタイルを用いて、オブジェクトを明るく描いている作品を多く手掛けています。本作品は、鳥の飛行を抽象表現したもので、鶴巻温泉駅北口広場の整備の際に制作を依頼したものです。

「宿借り おかえりなさい」

制作者：西巻一彦

(にしまさ かずひこ)

取得経過：鶴巻温泉駅北口広場整備制作設置委託

設置：平成8年4月
素材：黒御影石、白御影石



鶴巻温泉は温泉街ですので、温泉利用者は宿を借りるといふことから、ヤドカリがデザインされています。こちらの作品も鶴巻温泉駅北口広場の整備の際に制作を依頼したもので、駅前に設置されるということから、再び鶴巻温泉を訪れてきてくれた際に、「おかえりなさい」の心で迎える気持ちが作品のタイトルに込められております。

【宮永岳彦記念美術館】

「宮永岳彦 彩と響」

バレエやフラメンコといった舞踊をテーマとした連作とともに、音楽に関連した油彩画、童画、表紙画、ポスター、レコードジャケットなど、華麗で優雅な女性美を描いた作品を中心に展示されています。

また、期間限定で宮永岳彦氏がデザインしたロマンスカー3000形（SE）の写真、デザインされたポスター、資料や模型なども展示されていました。

宮永岳彦画伯は「光と影の華麗なる世界」と称される美人画で知られます。昭和21年から15年間、秦野市名古木のアトリエで創作活動を行いました。二紀会の設立に参加し、昭和54年（1979年）に日本芸術院賞を受賞。昭和61年（1986年）には二紀会理事長に就任しました。



【見学場所の紹介】

「弘法山公園」

浅間山、権現山、弘法山の3つの山を含む地域を弘法山公園といいます。弘法山公園は、かながわの景勝50選、かながわの探鳥地50選、かながわの花の名所100選、関東の富士見百景に選ばれています。

弘法山公園は紅葉だけでなく、春には桜の名所としても有名で公園全体には2000本を超える桜があります。他にも、弘法大使の祭である釈迦堂、前田夕暮の歌碑、乳の井戸、鐘楼など見所が沢山あります。



・浅間山

浅間山からの展望は素晴らしく、晴れていれば富士山や箱根の山々がきれいに見えます。富士山の見える山には浅間神社が祭られ、浅間山と言われることが多く、弘法山公園の浅間山も同様の理由で名付けられたと思われます。山頂付近にはその名残の浅間神社の小さな祠があります。

・権現山

権現山は別名「千畳敷」と呼ばれるほど山頂部分が広がっています。権現山の名前の由来は、山頂に権現堂があったために名づけられました。麓にある龍法寺の伝えによると権現山には白山妙理権現が祭られていたようです。

・弘法山

弘法山は弘法大師が山頂で修業したことから名付けられたとの伝承があります。この弘法山は麓の龍法寺と深いかわりがあるといわれます。龍法寺は戦国期に真言宗から曹洞宗に変わりましたが、鐘楼の下に続く沢を真言沢といい、その名残があります。

「吾妻山」

山頂には、吾妻神社の石碑が建っています。日本武尊（やまとたけるのみこと）が、東国征伐に三浦半島の走水から舟で房総に行く途中、荒れる海に困っていましたが、その様子を見た妻の弟、橘媛（たちばなひめ）が海神の御心を慰めましようとして海に身を投げたところ、不思議と海は静まり日本武尊は房総に渡ることが出来ました。征伐後、足柄峠に立ち三浦半島を望んで「吾妻はや」と呼んだといわれています。このことから日本武尊を祭る神社の多くは吾妻神社と呼ばれています。



「矢倉沢往還」

矢倉沢往還は江戸・赤坂御門から三軒茶屋、厚木、松田、御殿場を経て東海道・沼津宿に至る街道で、東海道の脇往還として機能しており、途中に矢倉沢関所が設けられていたことから【矢倉沢往還】と呼ばれていた。

元々は律令時代に開かれた畿内と東国を結ぶ主要街道（古東海道）で、官道として機能していたが、鎌倉時代に箱根湯坂道が開かれ、さらに江戸時代になると箱根東坂・西坂が本道になり、裏街道という位置づけに変わってしまう。

しかし、江戸中期から庶民の間に大山講が盛んになると、宿駅が整備されていた矢倉沢往還が参詣道として利用されるようになり、大山阿夫利神社までの道を『大山街道』あるいは『大山道』と呼んでいた。



彫刻愛し隊員募集！！

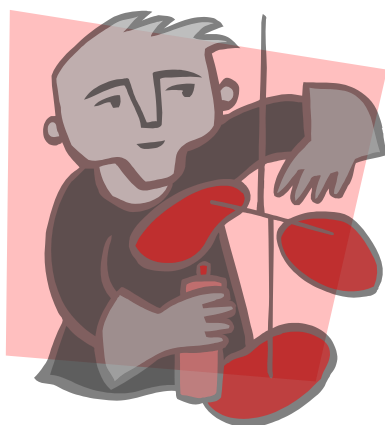
秦野市では、市民自治振興課で管理している野外彫刻の日常管理していただく彫刻愛し隊員を募集しています。

彫刻に触れながら野外彫刻の点検や簡単な清掃などのボランティアをしてみませんか？

【隊員の活動内容】

- 担当する野外彫刻を定期的に巡回し、点検や汚れている彫刻の清掃などの日常管理をしていただきます。
- 管理をお願いする彫刻については、各隊員との調整の後、決めさせていただきます。
- より良い日常管理の実施及び修繕計画作成等のための打ち合わせ会（年3～4回）を行います。
- 隊員への謝礼
年度最後の打ち合わせ会時に地域貢献券を贈呈します。

※現在6名の方々が隊員として活動しています



**秦野市市民部
市民自治振興課都市交流文化担当**

電話番号：0463-82-5118（直通）

FAX：0463-82-6793